

ジャーナリスト

日本ジャーナリスト会議 (JCJ)
〒101-0051 千代田区神田神保町1-18-1 千石ビル402号
電話 03-3291-6475 FAX 03-3291-6478
メールアドレス: jcyj@tky.3web.ne.jp http://www.jcj.gr.jp
年間購読料3,000円(送料込み) 振替 00190-2-76501



THE JOURNALIST

2015.11.25



キャンプ・シュワブゲート前=11月11日 沖縄タイムス提供

暴走を止められぬジャーナリズム 現地記者は県民の立場で報道

新基地建設問題をめぐり、政府は沖縄県の翁長知事と手をとり訴訟以来、2度目。沖縄に基地を置くためにふり構わな政府の実態は20年たっても変わっていない。名護市辺野古での埋め立て承認を翁長知事が取り消したことを違法として、石井啓一国土交通相は11月17日、取消処分を取り消す代執行訴訟を福岡高裁那覇支部に提起した。訴状では「瑕疵があるか否かにかかわらず、承認処分を取り消すことは許されない」とまで言い切っている。沖縄の民意を踏みにじった埋め立て工事で支払った経費473億円を挙げ、取り消

新基地建設
「政治の墮落」と翁長知事

国が法乱用、県を恫喝

しになれば「全くの無駄金となり、国民がその負担を追うことになる」と県を恫喝する。翁長知事は17日の会見で、住民の土地を奪って建設した米軍基地の歴史を踏まえ「銃剣とブルドーザー」による強制接収を思い起こさせる」と批判。取り消しを「違法と決めつけられるいわれはない」と反論した。

知る権利を蹂躪？ TBS岸井氏を槍玉に



見開いた大きな両眼の「私達は、違法な報道を見逃しません」と真つ赤な文字で大書、その下に「放送法第四条をこ

国民の「二猿化」狙うアベ政治
異様な「意見広告」仕掛け人は
実をまげないか「報道は事同条の番組編集準則を例記する。そのあとが凄い。TBS「NEWS23」のメインキャスター司会者の岸井成格氏が番組中で「メディアとしても(安保法案の)廃案に向けて声をすっと上げ続けるべきだ」と主張したが、司会者は番組と放送局を代表するものであり、この発言は「国民の知る権利

新たな「戦前」を許さない。そのためにペン・マイク・カメラを！ JCJ 60周年。

「私人になりすまし」で国交相に審査と取り消しの執行停止を請求。今度は国交相が国の立場で代執行を求めた。法の趣旨をねじまげてでも政府に楯突く者を従わせようとする構えだ。

阻止の辺野古の闘争は美しい海を守るだけではない。国家権力から民主主義と社会正義を守る闘いである。裁判の結果がどうであれ闘いは続く。沖縄に生きるジャーナリストたちは県民の立場で報道を続ける。与那原良彦(沖縄タイムス政経部長)



「私にたいしては、代執行訴訟などの裁判闘争も沖縄県と政府の対立だけに矮小化すると、問題の本質を見失ってしまう。森本敏元防衛相も海兵隊駐留が沖縄でなくてはならない軍事的な理由はない」としている。

阻止の辺野古の闘争は美しい海を守るだけではない。国家権力から民主主義と社会正義を守る闘いである。裁判の結果がどうであれ闘いは続く。沖縄に生きるジャーナリストたちは県民の立場で報道を続ける。与那原良彦(沖縄タイムス政経部長)

「情報開示運動をしていくという。呼びかけ人は、作曲家のすぎやまこういち(代表)、上智大名誉教授・渡部昇一、拓大総長・渡辺利夫など7人。なるほどという顔触れだが、彼らにそう力があるとも思えない。本日のスポンサー、仕掛け人はだれかが気になる。(なお産経新聞も14日、全く同じ内容の広告を出している)



読売新聞「意見広告」を掲げ抗議。11月19日、国会正門前で、酒井憲太郎撮影

「安保法」強行への怒りは全くおさまっていない。11月19日の午後6時30分から、強行採決2カ月目の国会正門前集会所が開かれた。JCJ運営委員の有志も、幟旗を持って国会図書館前に集合し、集会前に11月29日の「60周年記念シンポジウム」のチラシを配布した。「報道は大事だから」といって受け取る人もいて、千枚のチラシをまき終わった。

国会正門前集会
JCJ有志も参加
「安保法」強行への怒りは全くおさまっていない。11月19日の午後6時30分から、強行採決2カ月目の国会正門前集会所が開かれた。JCJ運営委員の有志も、幟旗を持って国会図書館前に集合し、集会前に11月29日の「60周年記念シンポジウム」のチラシを配布した。「報道は大事だから」といって受け取る人もいて、千枚のチラシをまき終わった。

放送の自由に不当介入

政府、BPO見解に危機感

メディア総がかりで反撃を

BPO（放送倫理・番組向上機構）放送界の自主機関の放送倫理検証委員会（委員長は川端和治弁護士）は11月6日、この不必要かつ拙劣な「やらせ」は放送倫理違反だとNHKに注意、その措置を公表した。だが、この見解は最終部分で、政府が最近、放送界の自主規制に委ねるべき倫理問題に不当に介入し

てきたのは、放送の自由「ズアアップ現代」問題でNHKに嚴重注意の行政指導をし、自民党情報通信戦略調査会もNHK幹部を呼びつけ、聴聞にかけた。この調査会は「沖縄の地元二紙は潰せ」ということを聞かない放送局には広告を出させないようにする」などの発言が飛び出したことで名を馳せたところだ。

BPO委員長の結語はこうした事情を踏まえて出されたものだ。だが、これが出るや、11月10日の衆院予算委員会では高市総務相が、「放送法四条の準則は単なる倫理規定ではなく法規定であり、放送法を所管する総務相は法違反を取り締まる責務がある」と開き直り、安倍首相もこれを支持した。そして、これを

応援する意見広告が登場したのだ。

現行放送法は2010年改正で三条が二つに分割され、もとの三条二項以下が現四条とされたが、その全項が先行する現三条「放送番組は、法律に定める権限に基づき、何人も干渉され、又は規律されることのない」の原則に従うとされている点是不変だ。「何人」には政府も含まれる。

「法律に定める権限」とは、メディアによる名誉毀損は刑法によって処罰されるが、この場合の刑法がそれに当たる。放送法を所管するものは放送法によって放送番組に介入できるなどという話にはならない。むしろ放送法を所管するものは、政府の不当な介入から放送番組を守ることに責務になるのだ。

こうした原則、メディアの民主的あり方までが、政府の勝手なグズグズにされそうになっている。そこに大衆扇動の動きまで加わろうとしている。この広告を受け入れた読売新聞の判断も疑問だ。広告掲載基準はどうなっているのか。

メディア全体がこの危機を真剣に受け止め、不

「『ユース23』の岸井成格氏の『メディア』として安部法案の廃案に向けて声をずっと上げ続けてきた」という発言は、テレビ局を代表するものであり、放送法違反だ。14日と15日、産経新聞と読売新聞に掲載された「放送法遵守を求め視聴者の会」（呼び掛け人・渡部昇一上智大名誉教授ら）の全面意見広告は、いよいよ言論に対するテロの時代

「『ユース23』の岸井成格氏の『メディア』として安部法案の廃案に向けて声をずっと上げ続けてきた」という発言は、テレビ局を代表するものであり、放送法違反だ。14日と15日、産経新聞と読売新聞に掲載された「放送法遵守を求め視聴者の会」（呼び掛け人・渡部昇一上智大名誉教授ら）の全面意見広告は、いよいよ言論に対するテロの時代

「『ユース23』の岸井成格氏の『メディア』として安部法案の廃案に向けて声をずっと上げ続けてきた」という発言は、テレビ局を代表するものであり、放送法違反だ。14日と15日、産経新聞と読売新聞に掲載された「放送法遵守を求め視聴者の会」（呼び掛け人・渡部昇一上智大名誉教授ら）の全面意見広告は、いよいよ言論に対するテロの時代

視角

「私たちの『知る権利』はどへ？」と世論喚起を図る。広告では総務省に「全体から見てバランスがとれているか判断することが大切」という

「私たちの『知る権利』はどへ？」と世論喚起を図る。広告では総務省に「全体から見てバランスがとれているか判断することが大切」という

野党共闘実現に全力

地域の独自性を大事にして



本間信和、神宮司博基、安部さくらさん。10月1日、東京・神保町のJCJ事務局で。酒井憲太郎撮影

「私たちの運動は、規約や綱領を持つ政党や労働組合のような組織ではなく、問題や事態の推移に応じて変化していく『しなやかなうねり』のようなモノ」

「私たちの運動は、規約や綱領を持つ政党や労働組合のような組織ではなく、問題や事態の推移に応じて変化していく『しなやかなうねり』のようなモノ」

「民主主義って何だ？」「これだ！」

「民主主義って何だ？」「これだ！」

「私たちが高度経済成長も、学生運動の高揚も知らない。物心ついてからどんだ底しか経験してない世代」と彼は口を揃える。だからこそ、個人の尊厳や個性に対するこだわりも我々の世代よりも強い。

「私たちが高度経済成長も、学生運動の高揚も知らない。物心ついてからどんだ底しか経験してない世代」と彼は口を揃える。だからこそ、個人の尊厳や個性に対するこだわりも我々の世代よりも強い。

「戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会」では、2000万人を目標とした「戦争法の廃止を求める統一署名」を決定し、現在、運動を展開中だ。目標期限は16年4月25日。

「戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会」では、2000万人を目標とした「戦争法の廃止を求める統一署名」を決定し、現在、運動を展開中だ。目標期限は16年4月25日。

「戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会」では、2000万人を目標とした「戦争法の廃止を求める統一署名」を決定し、現在、運動を展開中だ。目標期限は16年4月25日。

「戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会」では、2000万人を目標とした「戦争法の廃止を求める統一署名」を決定し、現在、運動を展開中だ。目標期限は16年4月25日。

「戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会」では、2000万人を目標とした「戦争法の廃止を求める統一署名」を決定し、現在、運動を展開中だ。目標期限は16年4月25日。

「戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会」では、2000万人を目標とした「戦争法の廃止を求める統一署名」を決定し、現在、運動を展開中だ。目標期限は16年4月25日。

「戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会」では、2000万人を目標とした「戦争法の廃止を求める統一署名」を決定し、現在、運動を展開中だ。目標期限は16年4月25日。

「戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会」では、2000万人を目標とした「戦争法の廃止を求める統一署名」を決定し、現在、運動を展開中だ。目標期限は16年4月25日。

総がかり行動2千万人署名

「戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会」では、2000万人を目標とした「戦争法の廃止を求める統一署名」を決定し、現在、運動を展開中だ。目標期限は16年4月25日。

「戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会」では、2000万人を目標とした「戦争法の廃止を求める統一署名」を決定し、現在、運動を展開中だ。目標期限は16年4月25日。

「戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会」では、2000万人を目標とした「戦争法の廃止を求める統一署名」を決定し、現在、運動を展開中だ。目標期限は16年4月25日。

「戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会」では、2000万人を目標とした「戦争法の廃止を求める統一署名」を決定し、現在、運動を展開中だ。目標期限は16年4月25日。

大野晃の スポーツコラム

ワールドカップ(W杯)が発表された国際陸上競技開催地決定や放映権などから贈収賄疑惑で幹部が逮捕されるなど大揺れの国際サッカー連盟では、会長、副会長も資金

競技会の興行化と腐敗

辞任している。巨大な国際競技団体役員は不正が相次いで明るみに出た。組織的ドーピングにか

がかりな買収疑惑が発覚して、国際競技団体役員

追跡する他の国際競技団体でも、表面化しないだけなのかもしれない。

興行的成功を追い求め

を如実に表した。

国際オリンピック委員会(IOC)のソルトレックシティー冬季五輪開催決定にからむ委員の大の温床となっていること

秘密保護法裁判に不当判決

東京地裁は司法判断を避け「門前払い」

秘密保護法が合憲か違憲かの判断を回避——フリーのジャーナリストら42人が提起した秘密保護法の損害賠償を求めた訴訟で、18日に東京地裁が下した判決は、いずれも原告側の主張を退けた不当

なものだ。103号大法廷に集まった約100人の傍聴者と出廷した30人の原告は、みな一様に腹立たしさを覚えた。

訴訟の最大焦点は、秘密保護法が国民の知る権利を侵害するなど違憲か否かだった。谷口豊裁判

長は「具体的な紛争が生じていないので、訴えは不適法」と却下した。裁判に向かないから審理はしないと断ったのだ。つまり裁判所は憲法判断に踏み込まず

「逃げた」のである。また、同法成立により取材の自由が制限され、委縮効果

を生まれているので慰謝料として一人10万円の損害賠償請求について、谷口裁判長は「取材活動が困難になったとは認められない」と棄却した。

ところで開廷前にちょっとした「採め事」があった。原告団が事前に地裁に申請した判決日の開廷直前の写真撮影が不許可になった理由を、原告の一人が谷口裁判長に尋ね、ムツとなった裁判長は「開廷後に理由を説明する」と素っ気なく答えた。尋ねた原告は、司法記者クラブによる2分間ビデオ撮影を許可しているのに、なぜフリーランスの撮影はダメなのかを

知りたかったのである。そして記者クラブの撮影が始まる直前に撮影不許

らか)ので、理由は説明しない」と言い放った。裁判長の子供じみた態度に原告団は呆気にとられた。絶望的な裁判所を見た気がした。

判決後、参院議員会館で開いた報告集会で、原告代理人の山下幸夫弁護士はこう言った。「地裁は秘密保護法が違憲か否かの判断を回避、逃げた。提訴したのはそこを判断してもらうため



判決後に参議院議員会館で開かれた報告集会

る国際競技団体の「競技者第一」は、宣伝と収益拡大の手段にすぎないと思わせる。

興行化の推進役がテレビに進展し、さまざまな権利を生んで、役員腐敗の温床となっていること

はスポーツの人的価値を高めたのだろうか。圧倒的に多くの人々を、スポーツを見るだけに追いやり、競技者や競技関係者に拝金主義を拡大し、支援する国家の勝利至上主義を正当化し、競技会運営者に腐敗の種をまき散らしたのではないか。

腐敗の表面化は、巨大興行と化した国際競技会を人間の手に取り戻し、友好と連帯の集いに再生させる好機ではある。

新国立競技場問題に表出した興行重視に対するスポーツ愛好者の怒りこそ、五輪ビジネスの受け入れがたい傲慢さへの拒否反応に違いない。(スポーツジャーナリスト)

だ。スルーしたのだ。控訴する。高裁では違憲判断を迫る

同じく原告代理人の堀敏明弁護士は「合憲判決があり得たが、最悪の結果は避けられた」と感想を述べた。

民主党の福島みずほ、生活の党共同代表の山本太郎の両参院議員から「原告団、頑張れ」とエールが送られた。

知事を支えて現場の闘い広がる

国の代執行提訴は許しがたい沖縄差別

翁長知事による辺野古埋立承認取り消しの「執行停止」を求めた沖縄防衛局の申し立てを受け、石井啓一国土交通大臣は10月27日、執行停止の決定を下すと同時に、「代執行」(国が知事に代わって埋立承認を行う)の手続きに入った。

翌28日、防衛局は工事着手にクリアすべき条件が

多々あり、本格工事には程遠い。県民をあきらめさせるための情報操作にメディアは加担すべきではない。

沖縄県は11月2日、国地方係争処理委員会(総務省所管)に不服審査を

申し出、国交大臣の執行停止を取り消すよう求めた。県は今後、法廷闘争で法的正当性を主張するとともに、「埋め立て承認撤回」も検討している。

作業再開以来、ゲート前では連日、作業車両を止め、抗議する市民を機動隊が排除、怪我人や逮捕者も出た。これについて各メディアは、政府の発表そのままに「本工事着工」と報じたが、実際にはクリアすべき条件が

秘密法と戦争法

秘密保護法制定からの2年を問う「秘密法と戦争法がつくる『準戦時体制』とは何か」

日時 12月6日(日) 13時30分〜16時30分 (13時開場)

会場 千駄ヶ谷区民会館2階ホール JR山手線原宿駅(竹下口)より徒歩約6分 地下鉄千代田線明治神宮前駅(2番出口)より徒歩約8分

講演 保阪正康さん(ノンフィクション作家・日本近現代史研究者)

主催 「秘密保護法」廃止へ実行委員会

連絡先 新聞労連 jnpwu@mxk.mesh.ne.jp / 平和フォーラム 03-5228-9182 / 憲法会議 03-3261-9007 / 許すな!憲法改悪・市民連絡会 03-3221-4668

8・15記念の夕べ

西田和憲

僕が日本ジャーナリスト「ベ」に参加したときだ。ト会議に入会したのは1970年代後半だった。当時、大阪には「共、社の枠を超えた交流同」「日経」「朝日」「読は刺激的だったし、日本売」などそれぞれに支部があった。各支部がどんな活動をしていたか知らなかったが、自分が会員

何年の「夕べ」で誰を講師に招いたかを、当時の記憶が蘇るとき、大阪支部大阪で中心的な役割を果たしていた一人、「読売」OB尾崎敬さんがメモし



1982年、大阪の会員と親しかった金哲秀さんが祖国に帰ることになり、「夕べ」で「最後のあいさつ」をした時のスナップ。

参加者は毎回、30〜40人ぐらいたったと思うが、1970年のむのさんの時だけ「参加70人」と書かれている。主催する側も、その多さに驚いたのだろう。

中継り。ポルト

連載

月4日から警視庁機動隊100人以上が投入され、座り込む人々を力づくで「ぼつ抜き」し、鉄柵で囲った檻の中に拘束するなど暴力が強まる中、11日の早朝行動には500人が参加し、1時間半にわたって作業車両の進入を止めた。17日、国交大臣は翁長知事の承認取り消しは違法だとした。周辺歩道をも埋め尽くした約1200人の人々の代執行提訴への怒り、知事を支えようとの強い意思が、作業車両も機動隊もついに寄せ付けず、ゲート前には「勝利」の歓声が響いた。一方、ボーリング調査が再開された大浦湾では、この日、海上保安官らの暴力により抗議船の船長が一時意識不明となった。陸でも海でも吹き荒れる国家権力の暴力を許してはならない。浦島悦子



伊藤力司の ワールド ウォッチ

パリで11月13日に起きた同時多発テロは、何の罪もない129人を殺し、352人を負傷させた。オランド仏大統領は、犯行声明を出した「イスラム国」(IS)に対する戦争を宣言し、シリア領内のIS本拠地に対する空爆を強化した。しかし問題は、戦

怖を与えることによつて、政治的得点を稼ごうとする行為である。その意味で今回の事件は典型的なテロと言える。イスラム過激派の第1世代は、80年代のアフ

に裏切られ、反米の権化になったワサマ・ビンラディンが組織したアルカイダ(AQ)である。その犯行とされる「9・11」事件で怒り狂った米アフガン撤退後CIAの弱点を突く攻撃で恐

14年6月、イラク第2の都市モスルを占領した彼らは「イスラム国」を名乗り、指導者のバグダディはイスラム教の開祖ムハンマドの後継者カリフを名乗った。

世界のイスラム教徒17億人の大多数はテロに反対だ。バグダディのカリフ宣言を認める人はゼロに近い。だがキリスト教社会に住むイスラム教徒が「居心地の悪い」思いをしているのも事実だ。キリスト教世界が「自分たちだけが正しい」と言い張る限り、真の平和は来ない。

第4世代の登場だ。カリフを名乗ったという事は、全世界イスラム教徒のリーダーだとの宣言である。19世紀以来イスラム圏は、西

NHKをふたたび包囲 「アベチャンネルはゴメンだ！」



渋谷の町をデモ行進する集会参加者

11月7日(土)の午後、NHKは東京の放送センターをはじめ、全国12カ所で市民に包囲され、「アベチャンネルはゴメンだ」との怒りの声で包まれた。

これは、8月25日の第1回包囲行動に続いて、NHK包囲行動実行委員会が呼びかけて開かれたもの。6日に行われた福岡に続いて、7日は広島、神

戸、大阪、京都、大津、奈良、名古屋、岐阜、東京、茨城、福島、11カ所の放送局前と街頭で市民が断続的にデモ、スタンディングコール、リレートークなどでNHKの安保報道、沖縄報道に対する抗議を繰り返した。

東京では集会と渋谷のデモ
放送センター前の集会には、小雨の中を400名が参加し、リレートークが行われた。

この日は集会の後、渋谷の真ん中でデモをし、広く市民にNHK問題を訴えた。

土曜の人数の多い中、街宣車を先頭に「NHKは政権の介入に屈するな」「NHKはアベチャンネルになるな」「マイナンバーを受領料支払いに使うな」「羽井会長はやめろ」のコールを繰り返した。

この日は集会の後、渋谷の真ん中でデモをし、広く市民にNHK問題を訴えた。

午後7時〜9時
会場 スペースたんぼぼ 千代田区三崎町2-16-2 ダイナミックビル4F

お話 山口正紀さん(科学ジャーナリスト、元読売新聞記者)
参加費 800円
問い合わせ たんぼぼ舎 03-3238-9035

NHKに対する抗議のデモを見るのは珍しいのか、沿道の人々は興味深そうな表情だった

最後に映画『庄殺の海』の影山あさ子監督が、NHKの沖繩・辺野古問題に対する報道姿勢を鋭く批判した。

ミニニュース
学習会「戦争する国とメディア 安倍政権と報道戦争法案・原発・TPP」

「NHKを考える福岡の会」の準備会ができ、10月27日に初会合を開いて活動を始めた。

福岡にも「NHKを考える会」準備会
来春、正式発足へ
申し入れと放送局前アピールを実施

「NHKを考える福岡の会」の準備会ができ、10月27日に初会合を開いて活動を始めた。

福岡にも「NHKを考える会」準備会
来春、正式発足へ
申し入れと放送局前アピールを実施



撮影 梅原 渉

劇団昴 『谷間の女たち』 男たちが誰もいなくなった 村で、女たちは――

演劇回り舞台

日も河の岸辺に座り続け、ひたすら待ち続ける――。そんな折、一人の男の死体が上流から流れ着く。死体には首がなく、全身傷だらけで、しかも黒焦げであった。しかしソフィアは、それが自分の父親だと信じて疑わなかった

父親だ、あるいは夫だ、兄だ、息子だ、といった言い争う――。時の政権によって埋葬を禁じられ

終了後、「放送部長」と名乗る職員が私たちに近づき、「意見は上層部に伝えます」とわざわざ言いに来た。

準備会では、来年2月20日に「NHKを考える福岡の会」を正式に発足させることにし、11月26日も事務局員がNHK福岡放送局に向き、福岡放送局の調査公表の際、BPOが指摘した『政府介入』をさせるなという激励・要請文を提出する予定。

この地を新たに治めることになった隊長(水野龍司)は、以前から駐在する副官(石田博英)とは違って、いかにも物分りの良い人物であった。しかし、いくら良心的であっても、所詮は「権力者」である。

「父を返せ」「夫を返せ」といつて押し掛ける女たちに対して、なすすべを知らない隊長。河原に集まって要求する女たちに向って、隊長は遂に発砲し、ソフィアは殺害される。しかし、その孫娘フィデア(あんどつさくら)は、口のきけない娘に一部始終の物語を伝えようとする――。

(10月17〜25日 池袋あうるすぽっとにて上演)

安住邦男

日本はなぜ核を手放せないのか「非核」の死角

太田昌克

「核の傘」と「非核」——その重大な矛盾を衝く

広島・長崎で被曝し、ビキニの密約を米国と結び、国連では核兵器廃絶を求め、非核の執着——その相対的な矛盾を衝く。核兵器の執着は、長年の取材と調査から分析した。

朝鮮半島有事の際には、核兵器を積んだ米軍は、核兵器を積んだ米軍の姿勢を堅持してきた。しかし政府は、核持ち

機が日本に飛来する危険がある。しかも核を手放さない日本は、核兵器の原料プルトニウムを生産し続けている。

原爆投下直後、その非人道性を非難する世論を恐れて、米軍は残留放射能や内部被曝のみ消した原水爆禁止運動が広がっている。

ビキニの水爆実験で国民が核兵器の恐ろしさを改めて知り、党派を超えた原水爆禁止運動が広がっている。

「平和利用」の美名との熾烈な闘いを続けている。たとえばビキニで米国が使った許容線量という数値が、3.11福島原発

事故後にも、被曝の安全基準となり、正当化に使われている。

集団的自衛権の行使を容認する安保法制下で、米軍と自衛隊の一体化が進むなか、日米運命共同体の危険は、かつてなく高まる。そうした核リスクの増大こそ、思わぬ死角だと著者は警告する。

(岩波書店1800円) 末浪靖司(ジャーナリスト)



「平和利用」の美名との熾烈な闘いを続けている。たとえばビキニで米国が使った許容線量という数値が、3.11福島原発

「朝日歌壇」より

安保法可決のニュースに「戦争は国会から」と友が呟く

額賀 旭(馬場あき子選)

われらみな降車ボタンのないバスに乗る戦争にすべり出すとき

植田 和子(佐佐木幸綱選)

安保法成立すればささず言ふ経団連は武器輸出を

内野 修(高野 公彦選)

決めてさえもたらみな忘れるとなめたらあかねで国民を

上谷美智代(永田 和宏選)

『SEALDs 民主主義ってこれだ!』

SEALDs編著

(大月書店1500円)

2015年を象徴するような本である。この年、日本という国を覆ったのは安倍晋三という腐臭を伴った暗雲であった。憲法を踏みしめ、民主主義を破壊し、国民を戦争へ駆り出そうとする無法の雲。だがその雲間から一条の陽光が射し込んだ。それがSEALDsという若者たちの一群であった。本書はその運動の中心を担っているメンバーたちの「裸の言葉」を、カッコいいデザインで表現したものだ。これほど言葉が生きている

鈴木耕(編集者)

憎悪の広告 右派系オピニオン誌 「愛国」「嫌中・嫌韓」の系譜 能川元一・早川タダノリ

偏狭な国粹主義を煽って、保守政権を支える宣伝・先導隊



人もいる。中国、韓国に対する国民感情が悪化している現状を考えると、「正論」(産経)「諸君」(文芸春秋・休刊)「SAPIO」(小学館)などが一定の読者を獲得している現状は軽視できない。

本書は、それら右派誌の過去20年間の広告を紹介しながら解説したもので、それらがその時々で保守政権のプロパガンダ役を担ってきたことが理解され、現在の右派政権の姿とも重なってくる。

その裏には、偏狭な国粹主義がどつかと腰を据えているのだが、それら右派誌が、米国に対して遠慮がちとも思えるのは、なぜなのだろうか。(合同出版1800円) 坂本陸郎(広告支部)

戦場が見える島沖繩 50年間の取材から 嬉野京子

祖国復帰へ人々と共に歩き、現実を撮り続けた“熱き眼”



占領期から今日のオーラル沖繩の時代へ。写真取材は命がけでもあった。ベトナム戦争の前線基地・沖繩では米軍車輛が乱暴に走り回っていた。1965年4月、宜野座で6歳の少女がひき殺

された。路上の遺体と米兵。嬉野はライカを取り出した。占領下の沖繩、「見つければ殺される」状況だった。一人が「私の肩に隠れて撮れ。フィルムはすぐに私に」と言った。別の男が反対側に行き、英語で話しかけた。米兵の視線が彼に向いた瞬間、シャッターを押した。写真は本土へ、世界へと配信された。人命も蹂躪される沖繩を捉えた衝撃のスクープだった。

嬉野京子が沖繩に関心を抱いたのは1963年のことである。祖国復帰を訴える「海上大会」の記事があった。20代、フリー写真家の嬉野は、人々が鹿児島から東京まで歩くを知って「大変な事

基地から出た。漁船の船倉に隠れて本島に逃げた。伊江島では米軍が山狩りで彼女を捜していた。沖繩からの脱出。空港係員は彼女を助けた。空便に乗った。席に着いた途端、涙があふれ出した。

日本復帰の前と後。沖繩を見つめた写真ルポだ。辺野古の不当な基地建設の背景と歴史を知る上でも格好の書である。

(新日本出版社1600円) 中村梧郎(JCJ代表委員)

『小説新聞社販売局』

幸田泉著

(講談社1500円)

新聞ジャーナリズムが「衰退」とか「危機」という言葉で認識されるようになったのは、いつのころからなのか。この問題を嘆き、最も熱心に提言していたのは、JCJの中で斎藤茂男氏だった。斎藤氏が亡くなったのは99年だから、既に15年の歳月が過ぎている。

この間、新聞報道の問題点はほとんど何も解決されていない。厳密に言えば新聞の危機は、斎藤氏以前から指摘されていたから、結局、昔からほぼ同じ新聞批判が延々と繰り返されてきたことに

「産経」「読売」、時には「朝日」の紙面で、本書の力पीにある文字がデカデカと並ぶ広告を目にした人は少なくないであろう。それを見てゲンナリとする人もいれば、美、片山さつき両議員に

その裏には、偏狭な国粹主義がどつかと腰を据えているのだが、それら右派誌が、米国に対して遠慮がちとも思えるのは、なぜなのだろうか。(合同出版1800円) 坂本陸郎(広告支部)

なる。が、根本的には何も変わっていない。原因は何か。記者の見識不足か。心がけを正せばそれで光は見えるのか。そうではない。もっと根源的で、しかも客観的な原因があるようだ。結論を言えば、それは新聞社の経営構造の中に、公権力が付け込んでくる重篤な汚点と弱点が存在することだ。本書は、「押し紙」や裏金など新聞経営者がひた隠してきた経営上の闇を克明に暴露している。小説とはいえ、新聞を死に追いやった根本的原因を、元新聞記者が世に問うた作品である。黒数哲哉(フリージャーナリスト)



キャンプシュワブ・ゲート前テントで説明する那覇市の高里鈴代さん。

「沖縄」は日本国民の切実な問題

民主主義のナマの行動に参加して

暉峻淑子

琉球新報・沖縄タイムスの

民衆に寄り添った取材・紙面

ジャーナリスト会議の全国交流会に参加して、何年ぶりの沖縄訪問が叶えられたのは本当に幸運だった。「島ぐるみ」民主主義のナマの行動に、一瞬でも直接に参加することができたからである。那覇空港から直行した沖縄タイムスの記者会見場では、琉球新報の論説副委員長と沖縄タイムスの編集局長その他の記者の現状報告と意見を聞くことができた。民衆に寄り添った真剣な取材態度と、事件の核心をつかんだ無駄のない報告と紙面に感動した。これこそ久しぶりに出会うジャーナリズムの本来の姿だと、嬉しさが半分、後半分はそれだけひびく迫っている沖縄の現状に心が痛んだ。

心が痛むなどという表現は、申し訳ない気さえする。沖縄問題は、平和憲法の意思を裏切る日本国民の切実な問題である。安倍政権に影響を与えられるのは沖縄の人々の抵抗とともに私たち国民の世論なのだ。安倍政権が対話を打ち切った強行手段に出るのであれば、安倍政権とは意見を異にする私たちが代わって沖縄の人達との対話と共働に力をつくさなければならぬ。沖縄の主権を安倍政権に認めさせることは、現政権の改憲野望に対して、主権在民の正当性を認めさせることでもあるからである。

形式的な公平・中立を装って、双方に譲歩を勧める新聞の論説もあるが、本質を見誤っていないか。権力を使って、強行できる絶対的優位にあるのは安倍政権の方なのである。沖縄はこれ以上妥協しようがない「人権と環境と自治」のギリギリ限界線を守ろうとして掲げている将来像とは、①沖縄はその歴史の悲劇



沖縄マスコミ労協反戦ティーチイン 10月17日沖縄県青年会館 撮影=沢田正

市民の力で野党共闘実現を

9条かながわの会主催 山口二郎法政大学教授が講演

9条かながわの会主催の集会在、11月11日(水)に横浜市南区の関内ホールで開かれた。オープニングは制服向上委員会メンバー。九条かながわの会呼びかけ人の作家、山崎洋子さんの開会挨拶に続き、山口二郎法政大学教授が講演した。

山口さんは、憲法53条の規定により臨時国会開催を求められたにもかかわらず与党が国会を開かない現状を批判し、これまで憲法がないがしろにされたことはないとした。一方で、安保法に反対する市民の動きについては「新しい政治文化が始まった」と明るい見方を示した。

山口氏は、保守対立の続いた戦後史を概括し、憲法と自衛隊が併存する「日本の平和主義」が一定の役割を果たしたとし、自民党内にもそれなりの多様性があったと説明した。

しかし、一時期、野党になった自民党は能天気な右傾化したと山口さんは言う。そして小選挙区制にしたことで政党内部が集権化したことを指摘した。

多数決を絶対視し、民主主義ではプロセスが重要であることを無視する政治の一方で、また反知性主義も蔓延している。

山口氏は、「安全保障は常に最悪を想定しておかねばならない」と現実主義を標榜する論者が、他国の戦争に参加した日本が武力攻撃を受ける事態のシナリオを考えているのかと批判した。そして安保法制の根底には、外務官僚の持つトラウマ——湾岸戦争の時に資金だけ供出してクウェートから感謝されなかった——と、安倍首相の岸信介の60年安保での挫折をこえ、憲法改正したい思いの二つがあると分析した。

山口氏は、安倍政治を止めるには野党協力しかないことを強調し、市民の力で野党の共闘を実現させることを訴えた。

続いて、県内の九条の会の4人と横浜弁護士会

の代表が発言。ステージには、各九条の会の幟旗や横断幕が集合した。

最後に九条かながわの会事務局代表の岡田尚弁護士が行動提起した。

岡田氏は安保法の特別委員会での採決で、議事録には「聞き取り不能」と記されていたことを指摘し、その後委員長職権で、可決と書き加えられたことを批判。委員長席に与野党議員が詰め寄る混乱の中で、審議打ち切りや採決要求、委員長不信任、など何本もの動議を可決したとする欺瞞を強調した。(神奈川支部)



ステージに集合した県内の九条の会。神奈川支部もJ.C.Jの幟旗を掲げた

の結果を引き受けて、平和の島として生きる②東南アジアの文化の交流拠点であった地理的立場から、文化の多様性を尊重し世界に発信する③沖縄の海と山と森の自然を、次世代に残す。…自治体の持つ当然の自己決定権ではないか。誰ひとりとして反対することができない、当たり前すぎる主張ではないか。安倍政権は沖縄を、ただ、基地を置くための、領土の一端としてしか見ていない。辺野古、キャンプシュワブ、高江の座り込みに参加しながら私は、沖縄を踏み台にして本土の人が味わっているつかの間の平和を、本物の平和にする道と考え続けた

(埼玉大学名誉教授)

レイバーフェスタ
2015
12月19日開催

第一部(無料) 10時30分 TVドキュメンタリー『川柳人 鶴彬』上映トーク(枝川吉範さん) 11時45分 公募川柳入賞発表/12時 休憩/12時30分正式受付開始 第二部13時 主催者あいさつ/13時5分演劇『沈黙せよ』/13時40分 音楽『歌おう世界のプロテストソング』/14時25分 土屋トカチ『アリ地獄天国』(仮)上映トーク(西村さん)/15時 休憩 第三部15時15分ビデオプレス『鉄柵をこえて』戦争法案ドキュメント』(仮)上映トーク(学生ハンストメンバーほか)/16時 3分ビデオ15本一挙上映/17時 フィナーレ/17時15分終了

▼日時 12月19日(土) 10時30分~17時15分(開場10時) ▼会場 東京・田町交通ビル6階ホール (JR田町駅「芝浦口」徒歩3分) ▼参加費 一般・当日1500円 前売・予約・賛同人1300円 失業者・障害者(一律)1000円 学生・20歳以下無料 ▼予約・問い合わせ レイバーネット 日本 TEL03(3530)8588 FAX03(3530)8578